

伊東宣明 個展『人の写真／糞と花』開催のご案内

展覧会名：伊東宣明 個展『人の写真／糞と花』

会 期：2022年6月25日（土）- 7月24日（日）

・オープニングレセプションは開催致しません。

・会期中は、水～土 12-19時、日 12-17時のオープンとなります。（定休日：月火祝）

会 場：WAITINGROOM（〒112-0005 東京都文京区水道2-14-2 長島ビル1F）

WAITINGROOM（東京）では、2022年6月25日（土）から7月24日（日）まで、伊東宣明の個展『人の写真／糞と花』を開催いたします。伊東は、「身体」「生／死」「精神」といった生きるうえで避ける事のできない根源的なテーマを追求し、映像やインスタレーション作品を発表しているアーティストです。当ギャラリーでは4年ぶり3度目の個展となる本展では、「写真」（あるいは画像）が氾濫する現代において、私たちは「写っていない人々」を想像することができないことを、作者自身がメンターを演じて行われる「エクサイズ」によって浮かび上がらせる映像作品『人の写真』と、作者自身の排泄物と世界中の鮮やかな花で構成される映像作品『糞と花』の、2点の新作を発表いたします。また、作家が「死」のメタファーを口ずさみながら自身の皮膚をめくり続ける『蝋燭/切り花/眠り/煙』（2020）や、コロナ禍の中で制作された『時は戻らない（2020-2022）』（2020-2022）など、生まれてから死ぬまでの不可逆な時間を重要なテーマとした近作も展示いたします。



『人の写真』 2022年、シングルチャンネルビデオ、サウンド

作家・伊東宣明について

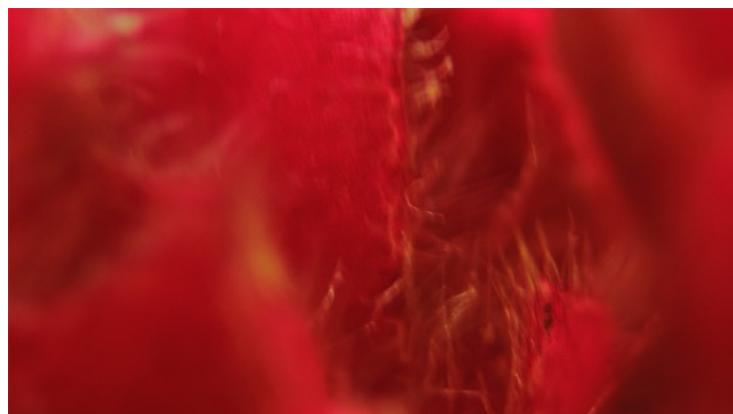
1981年奈良県生まれ。2016年に京都市立芸術大学大学院 美術研究科博士後期課程を修了、博士（美術）学位を取得。現在は京都府を拠点に活動中。近年の主な展覧会に、2022年個展『FOCUS#4 伊東宣明「時は戻らない」』（京都芸術センター／京都）、2020年個展『されど、死ぬのはいつも他人ばかり』（THE 5TH FLOOR／東京）、2018年個展『フィクション／人生で一番美しい』（WAITINGROOM／東京）、『人生で一番美しい』（同志社女子大学ギャラリー／京都）、グループ展『越境するミュージアム』（クシノテラス／広島・S-HOUSEミュージアム／岡山）、2017年グループ展『第3回牛窓・亜細亜藝術交流祭』（岡山県瀬戸内市尻海地区／岡山）、2016年個展『アートと芸術家』（WAITINGROOM／東京）、グループ展『S-HOUSEミュージアム開館記念展』（S-HOUSE ミュージアム／岡山）、2015年個展『APMoA Project ARCH vol. 13 伊東宣明「アート」』（愛知県美術館／愛知）、グループ展『GRAVEDAD CERO』（Matadero Madrid、マドリード・スペイン、2015年）など。2022年7月18日まで、個展『FOCUS#4 伊東宣明「時は戻らない」』が京都芸術センター（京都）にて開催中。

生きること＝不可逆な時間の中でゆるやかに死に向かうこと

本展で初公開となる新作『人の写真』の制作のため、様々な地域や年代の人物の写真を大量に収集すればするほど、伊東は、集まった写真に「写っていない人々」や「写ることができなかった人々」の存在を意識せざるを得なかったと言っています。「あまりにも『写真』（あるいは画像）が氾濫する現代において、人が写る/映ることの価値や意味が希釈されているかもしれません」「『写っている』ことに気をとられて、もはや存在していたことすら想像できなくなっているのかもしれません」と伊東が言うように、写真を見れば、それが撮られた時に確かにその人はそこにいたと理解することができ、その人の存在を想像することが可能ですが、写真がなく、その人を想像することが難しい時、その人は存在しないとも言えてしまうのかもしれません。世界中の誰かの写真が溢れる現代において、私たちは自分の意思でこの場に存在し、自分で考え、行動していると思っていますが、人が生まれ、存在しているということを想像するのは、簡単なようで実は難しいのかもしれません。

本展の作品はどれも、タイムベースドメディアである映像を用いて表現されます。映像が始まり、終わりに向かっていくリニアな時間の中に数々のシーケンスが並置され、観客は目の前に流れる映像と共に時間を過ごすことになります。世界中で絵画のモチーフとして描かれる「死」のメタファーを発しながら作家が自身の皮膚を剥き続ける『蝋燭/切り花/眠り/煙』や、コロナ禍の中で作家が日々撮り溜めた映像で構成される『時は戻らない（2020-2022）』などの近作にも見られるように、伊東宣明の作品は、生きるうえで誰もが避ける事のできないシリアルな概念を、メタフィクションを用いながらユーモラスに照射します。排泄や死は、生きる上で誰もが避けることができないものですが、さまざまと手にとって眺めることはできません。目の前でめくるめく映像体験を通し、私たちはそのようなグロテスクで生々しい宿命のようなものに向き合うことになるかもしれません。ですが、今この瞬間も緩やかに近づいている「死」を思い出すことは、私たちが今たしかに生きているということを実感することと同義であるとも言えるでしょう。

近作を通して緩やかに縁取られる伊東宣明の現在地を、お見逃しなきようぜひご高覧ください。



『糞と花』 2022年、シングルチャンネルビデオ

同時開催中：個展『FOCUS#4 伊東宣明「時は戻らない」』

会期：5月14日（土） - 7月18日（月・祝） ※6月8日（水）は臨時休館

会場：京都芸術センター ギャラリー北・南、和室「明倫」、ほか館内各所
(〒604-8156 京都市中京区室町通蛸薬師下る山伏山町546-2)

入場料：無料

詳細：<https://www.kac.or.jp/events/32042/>

※アーティストトークやライブパフォーマンスも予定されています。イベント詳細は展覧会webサイトをご覧ください

伊東 宣明

1981年 奈良県生まれ
 2006年 京都造形芸術大学 映像・舞台芸術学科 映像芸術コース 卒業
 2009年 京都市立芸術大学大学院 美術研究科 絵画(造形構想)専攻 (博士前期課程) 修了
 2016年 京都市立芸術大学大学院美術研究科 メディア・アート専攻 (博士後期課程) 修了・博士(美術) 学位取得
 現在は京都を拠点に活動中

個展

2022
 「FOCUS#4 伊東宣明『時は戻らない』」京都芸術センター（京都）

2020
 「されど、死ぬのはいつも他人ばかり」THE 5TH FLOOR（東京）

2018
 「フィクション／人生で一番美しい」WAITINGROOM（東京）
 「人生で一番美しい」同志社女子大学ギャラリー（京都）

2017
 「生きている／生きていない 2012-2017」ギャラリー16（京都）

2016
 「アートと芸術家」WAITINGROOM（東京）

2015
 「動物（習作）」アートスペース ゼロワン（大阪）
 「アート（AM Ver.）」アンテナメディア（京都）
 「APMoA Project, ARCH vol. 13：伊東宣明『アート』」愛知県美術館（愛知）

2014
 「0099」海岸通ギャラリー・CASO（大阪）※Itoh+Bak名義による個展
 「芸術家と預言者」HAGISO（東京）

2013
 「芸術家」アンテナメディア（京都）

2011
 「預言者」京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA（京都）

2010
 「回想の遺体」立体ギャラリー射手座（京都）

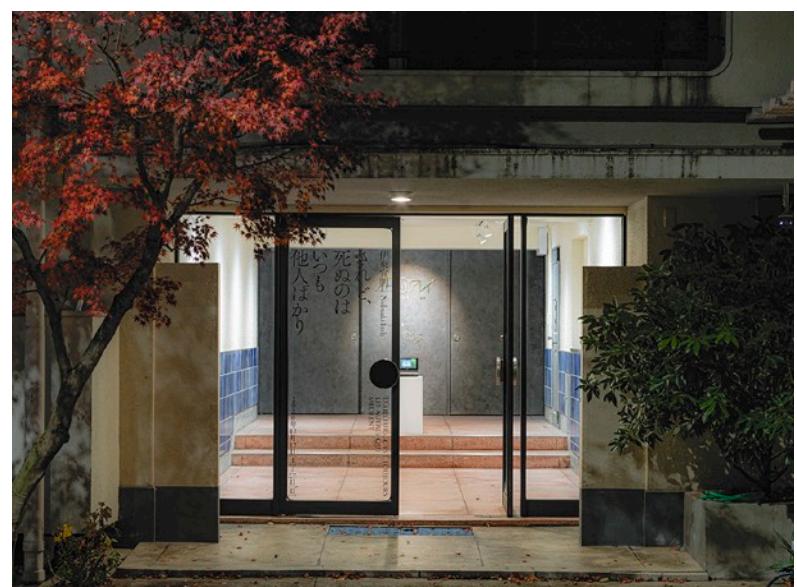
2009
 「1+1=1」立体ギャラリー射手座（京都）
 「短編」海岸通ギャラリー・CASO（大阪）

2008
 「1+1=1」海岸通ギャラリー・CASO（大阪）
 「幻視者／質問者と演者」ギャラリー16（京都）

2007
 「BODY SOAP」立体ギャラリー射手座（京都）
 2004
 「delusive skin」立体ギャラリー射手座（京都）



『蠟燭/切り花/眠り/煙』2020
 シングルチャンネルビデオ、サウンド、60分



2020年個展『されど、死ぬのはいつも他人ばかり』（THE 5TH FLOOR / 東京）展覧会風景
 Photo by Jukan Tateisi

主なグループ展

2021

「Over the fence」コートヤードHIROO（東京）
「ビューアイジング展」WAITINGROOM（東京）

2020

「10TH」WAITINGROOM（東京）

2018

「越境するミュージアム」クシノテラス（広島）・S-HOUSEミュージアム（岡山）
「CANCER 『THE MECHANISM OF RESEMBLING』」EUKARYOTE（東京）

2017

「NEWSPACE」WAITINGROOM（東京）
「Exchange of the landscapes Project」愛知県立芸術大学サテライトギャラリー（愛知）・STANDING PINE（愛知）
「船／橋 渡す FUNAHASHI WATASU」奈良県立大学（奈良）
「第3回牛窓・亞細亞藝術交流祭 Ushimado Asia Triennale2017」岡山県瀬戸内市尻海地区（岡山）
「Melting Point 2」MEM（東京）

2016

「S-HOUSEミュージアム開館記念展」S-HOUSEミュージアム（岡山）

2015

「GRAVEDAD CERO」Matadero Madrid（マドリード・スペイン）
「学園前アートウィーク 2015」浅沼記念館（奈良）
「Still moving @KCUA」京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA（京都）

2014

「牛窓・亞細亞藝術交流祭」瀬戸内市美術館・牛窓シーサイドホール（岡山）
「Hairy Soy Source, Soap and Ten Statements for an Artist」MIACA（香港）
「egØ- 「主体」を問い合わせる」punto（京都）

2013

「超京都2013」平成の京町家モデル住宅展示場KYOMO（京都）
「ニュイ・ブランシュ KYOTO2013」京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA（京都）
「岐阜 おおがきビエンナーレ2013」情報科学芸術大学院大学[IAMAS]（岐阜）
「美意識の変容」大阪市中央公会堂（大阪）（シンポジウムに伴うグループ展）

2012

「Transmit Program#3 『Metis 戦う美術-』」京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA（京都）

2011

「DONATIONS! 東日本大震災被災地のために」GURA（京都）

2010

「わくわくKYOTO」元立誠小学校（京都）
「スマーリュージアム2010」ギャラリー搖（京都）
「レゾナンス 共鳴 人と響き合うアート」サントリーミュージアム（大阪）

2009

「NONAME -KYOTO」旧立誠小学校（京都）
「NONAME -YOKOHAMA」横浜ZAIM（神奈川）
「京都市立芸術大学制作展 第3会場 -学内展-」京都市立芸術大学構内（京都）

2008

「芸術系大学作品展2008～ART UNIV.2008～」元立誠小学校（京都）
「京都市立芸術大学制作展 第3会場 -学内展-」京都市立芸術大学構内（京都）



『時は戻らない (2020-2022)』2020-2022
シングルチャンネルビデオ、サウンド

主なグループ展（続き）

2007

「第10回岡本太郎現代芸術賞（TARO賞）」川崎市岡本太郎美術館（神奈川）
「四条ストリートギャラリー」中央三井信託銀行（京都）

2006

「S T A I R S」海岸通ギャラリー・CASO（大阪）
「映像芸術コース卒業制作展」ギャラリーRAKU（京都）

2005

「F R A M E PLUS Hisao MATSUURA」海岸通ギャラリー・CASO（大阪）

2004

「京都アートアニュアル」京都造形芸術大学・高原校舎（京都）

パフォーマンス

2019

「Last Party ~さよなら三条、またきてよろしく~」ARTZONE（京都）

2018

「にんげんレストラン」歌舞伎町ブックセンタービル（東京）

ビデオスクリーニング

2017

「Melting Point」愛知県立芸術大学サテライトギャラリー（愛知）・STANDING PINE（愛知）

『時は戻らない（2020-2022）』2020-2022
シングルチャンネルビデオ、サウンド

2016

「Screening 'Melting Point'+TEGAMI Project from Hamburg」The Third Gallery Aya（大阪）
「Melting Point」FRISE（ハンブルク・ドイツ）
「Tokyo Lift-Off Film Festival 2016 オフィシャルセレクション」UPLINK（東京）

2015

「13e Festival international Signes de Nuit :フォーカスジャパン」パリ日本文化会館（パリ・フランス）
「イメージフォーラム・フェスティバル2015」（東京・京都・愛知・福岡・横浜）（招待作）

2009

「ナレーションの新しいデザイン」イメージフォーラム・シネマテーク（東京）

2006

「語り派-ストーリーテリングの実験」イメージフォーラム・シネマテーク（東京）

2005

「ヤング・パースペクティヴ2005」イメージフォーラム（東京）

2004

「BIWAKOビエンナーレ」トキワ館プロジェクトトキワ館（滋賀）
「ヴィデオ・サークル」関西ドイツ文化センター（京都）

アワード

2012 群馬青年ビエンナーレ2012 入選

2009 京都市立芸術大学制作展 奨励賞

2007 第10回岡本太郎現代芸術賞（TARO賞）入選

1999 （小説）文學界新人賞 最終選考候補作



『時は戻らない（2020-2022）』2020-2022
シングルチャンネルビデオ、サウンド

↓<次頁> 作家略歴（つづき）

アーティスト・イン・レジデンス

2015 トキヨーワンダーサイト 平成27年度二国間交流事業プログラム（マドリード・スペイン）

展覧会図録

『APMoA Project, ARCH vol.13 伊東宣明「アート」』愛知県美術館、2015年2月
(展覧会カタログ) 『岐阜おおがきビエンナーレ2013』情報科学芸術大学院大学[IAMAS]、2015年1月
『document ego』 ego展記録冊子委員会、2014年4月
『京芸Transmit Program #3 Metis – 戦う美術 -』 京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA、2012年5月15日
『レゾナンス 共鳴 人と響き合うアート』 サントリーミュージアム[天保山]、2010年4月

掲載記事

宮津大輔「CAN - Contemporary Art Now 宮津大輔が選ぶ New Media Art FILE15 伊東宣明」、『月刊アートコレクターズ』No.116、2018年11月号、p.112、生活の友社
「展覧会とアーティスト3」、『月刊ギャラリー』、2018年9月号、p.34、ギャラリーステーション
能勢陽子「APMoA Project, ARCH 5年の奇跡」、AAC Vol.93、2017年9月号、p.5、愛知芸術文化センター
「MEETING THE ARTIST/伊東宣明」、web版『美術手帖』、2016年11月24日、美術出版社
「MEETING THE ARTIST/伊東宣明」、『美術手帖』1046号、2016年12月号、ARTNAVI p9、美術出版社
小吹隆文「学園前アートウォーク」（レビュー）Lmagajp、2015年11月11日、<http://lmagajp/blog/news/2015/11/gakuenmaeart2015.html>
天野一夫「APMoA Project, ARCH Vol. 13 『アート』」（レビュー）、REAR35号、2015年9月、p.119
小吹隆文「伊東宣明《アート》」（レビュー）、artscape、2015年6月1日、http://artscape.jp/report/review/10111280_1735.html
中井康之「伊東宣明《アート》」（レビュー）、artscape、2015年4月15日、http://artscape.jp/report/curator/10109252_1634.html
小吹隆文「執筆者が選ぶ年間ベスト3」、京都新聞、2013年12月28日
吉田モモコフ「伊東宣明《芸術家》」（レビュー）、HAPS Exhibition Review、2013年11月5日、http://haps-kyoto.com/haps-press/exhibition_review/review_14/
小吹隆文「伊東宣明《芸術家》」（レビュー）、artscape、2013年7月1日、http://artscape.jp/report/review/10088825_1735.html
中井康之「伊東宣明《芸術家》」（レビュー）、artscape、2013年6月15日、http://artscape.jp/report/curator/10088446_1634.html
小吹隆文「人間の制度と関係を問う 伊東宣明展」、京都新聞、2013年5月25日
高嶋慈「Mètis -戦う美術-」レビュー、HAPS Exhibition Review、2013年2月4日、http://haps-kyoto.com/haps-press/exhibition_review/review_003/
小吹隆文「<レゾナンス 共鳴>その4 伊東宣明さん（出品作家）インタビュー」、アートのこぶ〆、2010年4月24日、<http://blog.livedoor.jp/arkobujime/archives/1361419.html>
高嶋慈「もう一つの「共鳴」-対話と交感の場が開かれるとき」、PEELER、2010年4月、http://www.peeler.jp/review/1006osaka_2/index.html
「尿を素材にせっけん、身体感問う 中京で大学院生が展示」、京都新聞、2007年4月25日

パブリックコレクション

S-HOUSEミュージアム、岡山

アーティストウェブサイト
<http://nobuakiitoh.com>



『時は戻らない (2020-2022)』 2020-2022
シングルチャンネルビデオ、サウンド

※本展に関するお問い合わせは、下記連絡先までお願ひいたします。

WAITINGROOM (代表：芦川朋子)

住所：〒112-0005 東京都文京区水道2-14-2 長島ビル 1F

営業時間：水木金土 12-19時・日 12-17時

定休日：月火祝

Tel : 03-6304-1877 Eメール : info@waitingroom.jp

Web : <http://waitingroom.jp>